

仙人通信 156 棒ノ嶺(969 m)・黒山(842 m)

棒ノ嶺(棒の折山)は、名栗湖と奥多摩の間の埼玉側に位置し、武甲山で代表される石灰岩を主体とする秩父層の山域で、奥武蔵を代表する山でもある。

今回は、名栗湖畔にある登山口の白谷沢入り口の駐車場に車を置いてのピストンである。

このコースは、関東ふれあいの道としても有名で利用者の多い事で知られている。

キブシや黄色いアブラチャンの花の咲く登山口ではあるが、直ぐに檜の林の中に突入だ。

左手下から心を洗われる様な白谷沢の瀬音を聞き、幅1 m程のなだらかなコースである。

林床には、ゼンマイ状の芽が付いたシダやヒサカキが目につく。高度が上がるに従い沢に

近づき、岩伝いに登る様になる。スタートから25分程で2段からなる藤懸の滝である。

ここからは、左右の崖が切り立ったゴルジュのコースで、渡渉を繰り返し進む。天狗の滝を

過ぎ白孔雀の滝まで30分程だ。渡渉する岩には、白い花卉に赤い小さな球の蕊を付けたハ

ナネコノメ・緑の葉に黄色い花卉でトウダイグサに似たミヤマネコノメ・地味な葉のヨゴレ

ネコノメだ。睫毛の様なリング状の花のコチャルメルソウも春を奏でる。丸太で組上げた急

な階段を登ると林道と交差する。ここまでに1時間15分だ。この一帯には、ハシリドコロ

が赤茶色の花を付け始めている。登山道は、林道上部20 m程に設けられおり、周囲はカタ

クリの咲く事で知られているが、寒い春の為やっと最初の一葉が見えるだけだ。

15分程で5 m程の大きな岩の岩茸石である。権次人峠に向かう尾根道は、南面檜・北面小

檜の急な登りである。先日降った雪が残り、高度を上げるに従い積雪も増え、足元を確認し

ての登りで、丁度30分を要した。ここからは、右手方向に尾根を進むコースである。

この一帯は、小檜に混じり楓の紅葉でも知られたポイントだ。階段状のコースの雪は、踏み

つけられ、泥まみれの状態だ。スタートから2時間15分で棒ノ嶺の山頂に立てた。

北側には名栗湖の先に有間山、武甲山、堂平山等の奥武蔵の山脈である。霞んではいるが西

武ドームも確認する事ができ、登った実感を掴んだ。山頂の景観を楽しんだ後、権次人峠に

戻り、尾根伝いに3等三角点のある黒山をピストンする事にした。50年以上前に購入した

軽アイゼンを付ける事で、滑る事に慎重な他の人を後目に、不安無く行動が出来た(備えあ

れば憂いなしか・・・)。峠から黒山までの700 mは、檜林の中をひたすら進み、登りとなる。

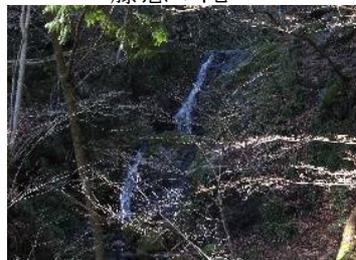
小檜やリョウブの明るい林となり、梢越しではあるが右手に川乗山等の尾根だ。棒の峰から

何と35分で3等三角点の山頂である。辿って来た尾根の延長上に岩茸石山や高水山を望む

事が出来た。休憩後権次人峠まで25分で戻り、岩茸岩から来たコースを辿った。沢筋では、

ミソサザイに見送られた心と和む5時間25分の(23500歩)山旅でした。(h 29.4. 4)

藤懸の滝



ゴルジュのコース



山頂から武甲山



黒山山頂

